倶多楽火山

○大正地獄の熱泥水噴騰活動

熱水噴騰活動は現在も継続している．噴騰に伴う地動振幅は小さく，穏やかな噴騰が続き，2008年11月下旬以降は噴騰活動の休止間隔が長くなることもあった(図１)．

噴騰は細かい土砂の放出を伴い，それらは湯沼近傍の積雪中に残されている（写真１）．

2007年９月末以来となる９日という長い休止期のあとに起こった2009年２月５日の噴騰はやや大きく，沼端から約10mの範囲にわたって土砂を放出した．

これ以降，地動振幅でみると，熱泥噴騰はより間欠的になったように見える．

一方，熱水組成から推定される深部熱水温度は，230℃前後で推移し，大きな変化はない．

全体として，熱水噴騰活動に大きな変化は認められない．

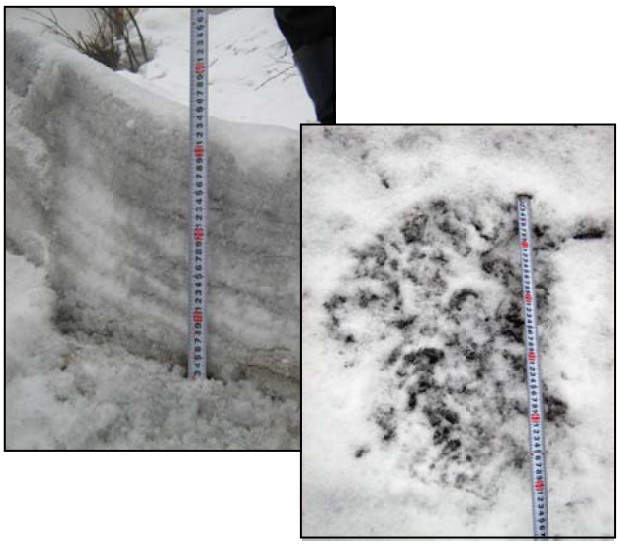

写真１．積雪中に残る熱泥噴出物．左上：流出口付近．堆積物の多くは細粒で飛沫とともに運ばれたと思われる．なお降雪の影響を受けており，縞間隔が噴騰の時間間隔を反映していないことに注意．右下：１月25日の活動により放出された熱泥．粒子は氷で覆われ，積雪が融解したことが分かる．

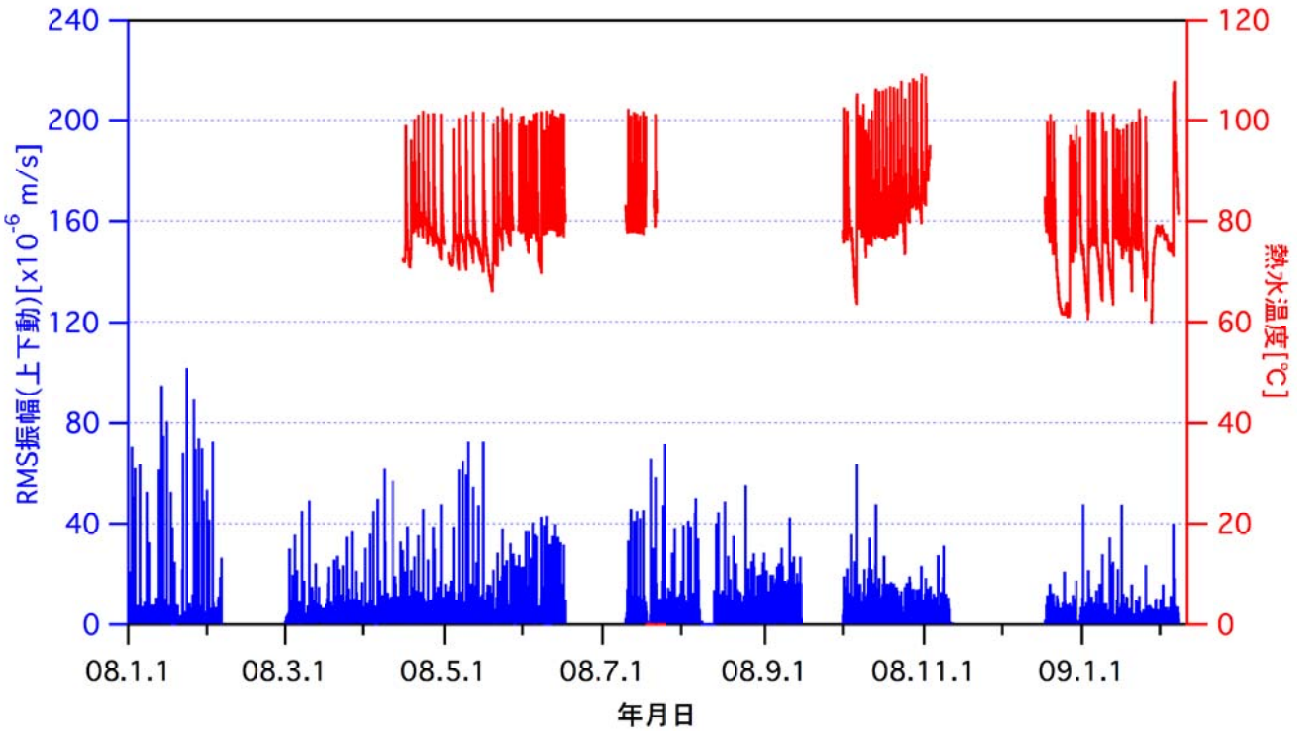

図１．大正地獄内の熱水温度(赤)と１分ごとのRMS地動振幅(青)の時間変化．熱水温度はテレメーター観測結果による．温度センサー設置深度は，10月１日以前が満水面下約５m，これ以降は約８mである．

(大島・我孫子・前川)

倶多楽火山